



同性愛は「不自然」ではない



—日本の男性同性愛 の歴史と文化—

日時：5/29（金）
10時40分～12時10分

場所：学術情報総合センター
10階 大会議室

しんがえ あきとも
新ヶ江 章友 氏

(大阪市立大学 創造都市研究科 准教授)

【講師プロフィール】

筑波大学大学院人文社会科学研究科修了。博士（学術）。カリフォルニア大学バークレー校、お茶の水女子大学、財団法人エイズ予防財団、名古屋市立大学を経て、現職。専門は、ジェンダー／セクシュアリティ研究、医療人類学、カルチュラル・スタディーズ。



【講演要旨】

同性を好きになることは、「不自然」なことなのでしょうか？ むしろ、異性愛「のみ」を「自然」と捉える社会のほうが「不自然」なのかもしれません。近年、同性愛に関するおびただしい数の研究が世界中で行われるようになってきました。とりわけ日本では古来より、僧侶、武士、町人の間で男性同性間の性愛関係が広く見られ、男性のほとんどがバイセクシュアルであったという研究が発表されています（ゲイリー・P・リュース『男色の日本史』作品社、2014年）。世界に目を向けても同性愛がタブーでない文化も存在し、動物の間でさえ同性愛関係は見られます。もしかしたら、現代というこの時代を生きる私たち人間のほうが「不自然」なのではないか。私たちは多様性のない生の貧困の時代に生きているのかもしれない。今回の講演では性の問題を通して、ゆたかな生とは何かについて考えたいと思います。

【定員・申込み方法】

大阪市立大学学生・教職員・市民・・・定員：250名 申込不要／当日先着順

【問合せ先】

大阪市立大学人権問題委員会事務局
学務企画課庶務担当（平日9時～17時） TEL：06-6605-3503

主催：大阪市立大学人権問題委員会

